



須坂市立須坂小・須坂支援学校 校長室だより

令和6年5月2日

第1号

みすどかる

住所:須坂市須坂 780
印刷:須坂小学校職員室
発行責任者:小松賢吾(校長)

学校長の小松でございます。本年度は小学校9名、支援学校8名の職員が新しく仲間となりました。担任等については、各校の学校だよりでお知らせしたとおりですのでご確認ください。本年度もお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度須坂小学校・須坂支援学校スタート



4月4日には小学校43名、4月5日には支援学校小学部5名と中学部1名の新入生を迎えるための入学式を行いました。小学校は昨年度より12名増えた223名となり、1年生は36名を超えたので、久しぶりに2学級編制となりました。支援学校は、4年生に1名転入生が加わり、小学部27名、中学部7名、全体では1名増えた34名でのスタートとなりました。昨年度は須坂小学校が創立150周年であり、1つの大きな節目の年となりました。コロナ禍も一区切りとなり、151年目の須坂小学校、14年目の須坂支援学校は、次のフェーズに向けた新しい学校の在り方への挑戦の年にしていきたいと思っています。

本年度、須坂小学校、支援学校ともに、大きな2本の柱をもって学校運営をしていきたいと思っています。その1つが交流活動です。子どもたちには、様々な仲間との関わりを体験してもらい、その中で自分の役割を感じたり、それを果たしたりすることで、対人関係力や問題解決力を伸ばして欲しいと思っています。そこで、本年度から学年にかかわらず16グループに分けて行う、縦割り班で一緒に遊んだり運動をしたりする活動を始めます。そして、その16グループに、支援学校の小学部中学部全員が加わり、2校が一緒に行う活動の場を日常生活に位置づけていきます。1つの建物の中に2校が共存することの価値を、実際の関わりの場面で感じられるようにしていきたいと思っています。支援学校の児童生徒と小学校の児童と関わっていくことには、双方に大きなメリットがあります。共にあるという環境を生かし、行事だけではなく、普段の生活に意図した関わりの場面を増やしていくことで、相互理解が進み、自然な関わりが増えていくことに期待したいと思います。そしてそれらの活動を通して、須坂市や両校が目指す「共生社会の担い手となる児童生徒の育成」につなげていきたいと思っています。本校だからできること、本校にしかできないことを更に工夫していきたいと思っています。

2つめは授業改善です。世の中は刻一刻と変わってきています。我々大人が常識としてきたことやあたり前だと思ってきたことが通用しない世の中になってきています。今ある仕事も、そ

の多くが近い将来AIに取って代わられると言われていています。今までの、知識を詰め込むだけの学習には意味がなくなり、AIにはできない「人として」の部分を育てていく必要を強く感じています。ICT機器を活用したり、話し合い活動を取り入れたりして、「自分に必要な知識を集め、自分で考え判断し、自分の決定に基づいて自分が行動していく」そんな力を育むための授業改善に取り組んでいきます。支援学校においても、「あと少し頑張れば自分の力でできる」という発達の最近接領域を意識した活動に、生活単元学習等でも自分のやりたいことに主体的に取り組む、それぞれの「願い実現」に向けた活動になるよう授業改善を進めてまいります。授業参観等で感じたことを、ぜひ学校にお伝えいただき、これからの子どもたちに必要な学びについて一緒に考えていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

はじめの一步をふみ出そう！

小学校の始業式では、この一学期に自分の頑張りたいことを明確にもつこと、そしてそれに向けてまずは簡単なことでいいから「はじめの一步をふみ出そう！」と伝えてあります。私も買って読んでない本が何冊もあります。まず読もうと決めて読み始めれば進んでいくのですが、なかなか最初の1ページを読み始めることができずにいます。目標が明確になれば50点、はじめの一步が踏み出せれば80点、100点に向けて継続出来るかというところだと思っています。まずは80点を目指して、さまざまな取り組みを始めたい一学期です。

自分の命は自分で守る！

4月17日に避難訓練を行いました。また、24日と26日には交通安全教室もありました。今年子どもたちに伝えたのは、「何があっても自分の命は自分で守ってほしい」ということです。また、19日には県警から講師を招いて防犯訓練ということで、不審者が校内に侵入してきたときの対応について職員研修を行いました。学校も全力で子どもたちを守りますので、下校後や休日などの過ごし方についてはご協力をお願いします。交通安全教室のうちに警察や安全協会の方からいただいたお話を紹介しますので、参考にしていただけたらと思います。

歩
行
に
関
わ
っ
て

- ・小さい子どもは興味がすぐに移り変わる。手を挙げるつもりでいても横断歩道手前で違うことに興味が移って忘れてしまうこともある。繰り返しやっておくことが大事。家庭にも協力してもらって、お家でもやる意識をもたせたい。
- ・信号待ちの時には一步下がって待つ。内輪差で巻き込まれないように注意する。
- ・登校時は気を張っているが、下校時や帰宅後の生活では気を抜いてしまうこともあるのではないかな。ご家庭に子どもと一緒に通学路を歩いてもらって、危険箇所の確認や、そこの歩き方を一緒に確認していただくと良い。

自
転
車
に
関
わ
っ
て

- ・自転車から降りるときには、車道側でない左に降りる癖をつけると良い。不用意に右に降りると後ろから来る車にひかれてしまうこともある。
- ・大きすぎる自転車も小さすぎる自転車も危険。身体の大きさに合ったものを。
- ・ベルや後ろの反射板がなかったり壊れたりしている自転車があるので整備を。
(対応が必要な自転車には札がついていたと思います)
- ・長野県は条例で自転車の賠償保険への加入が義務づけられているので確認を。

本年度もお気づきの点や、気になる点があればお気軽に学校へお声がけください。担任だけでなく、校長、教頭、養護教諭、特別支援教育コーディネーターなどがいつでもお話を聞かせていただきます。本年度も1年間よろしくお願いいたします。